

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：32641

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26770106

研究課題名(和文)英国唯美主義再考--服装・室内装飾の表象を手がかりに

研究課題名(英文)Revisiting English Aestheticism: Fashion, Dress, and Interior Decoration

研究代表者

輪湖 美帆(Wako, Miho)

中央大学・理工学部・助教

研究者番号：50707106

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は19世紀英国で活躍した作家オスカー・ワイルドと彼と関わりのある女性作家のテキストに描かれた服装や室内装飾に注目し、対象テキストの新たな解釈と同時代的意義を問い直すことを試みた。その結果、分析した2つのワイルドのテキストのうち、一方ではテキスト内での「唯美主義」や「唯美主義運動」の描かれ方が浮き彫りになり、他方ではヴィクトリア朝で時に否定的な目で見られた、女性による恋愛の場での意思表示が肯定的に描かれている、という解釈を示せた。また女性作家に関しては、従来あまり注目されてこなかった当該作家の特定作業から始めテキスト分析を進めるうち、当該作家の「女性唯美主義者」としての重要性が見えてきた。

研究成果の概要(英文)：This research project has focused on the representation of fashion, dress, and interior decoration in the texts of Oscar Wilde and a related female writer in Victorian England in an attempt to suggest new readings of and value in their texts. The project first examined two of Wilde's texts, clarifying how one delineates Aestheticism and the Aesthetic Movement, while the other text favourably portrays a woman who takes the initiative and acts - something that was thought to be undesirable for women in the Victorian period, particularly in romance and courtship. The project also deals with a text by a female writer, to whom little attention has previously been paid. In the course of trying to identify this writer, and through the examination of her text, her importance as a "female aesthete" has become clearer.

研究分野：英文学

キーワード：唯美主義 消費文化 服装・室内装飾 オスカー・ワイルド 英米文学 ヴィクトリア朝 唯美主義運動

## 1. 研究開始当初の背景

本研究課題は、これまで男性エリート知識人がその展開の中心に想定されることの多かった英国唯美主義において、女性作家や女性消費者の重要性を再評価しようという国内外の流れを主に背景としている。唯美主義における女性の活躍やその重要性を指摘した研究としては、代表的なものひとつに Talia Schaffer の *The Forgotten Female Aesthetes: Literary Culture in Late-Victorian England* (UP of Virginia, 2000) が挙げられる。Schaffer の研究は「新しい女」の存在の影に隠れてしまっている〈女性唯美主義者 (“female aesthete”)〉 (p. 4) たちに注目した点で非常に重要なものである。Schaffer はまた、唯美主義は「流行/ファッション (“fashion”)」という物質文化と関わるものであったため、女性作家にとって居心地のよい表現の場であったことを指摘しており (p. 3)、唯美主義における服装や室内装飾と〈女性唯美主義者〉たちとの関連性などを検討している。

こうした流れの中、本研究は 19 世紀英国で活躍した作家・詩人・劇作家であるオスカー・ワイルド (1854-1900) とその周辺の女性作家のテキストを服装・室内装飾という観点から分析しなおすことを目指した。ワイルドと服装・室内装飾の関係性については、国外だけでなく、国内でもたとえば佐々井啓が「服飾文化—ワイルドの装いと喜劇の衣装」(富士川義之、玉井暲、河内恵子編著『オスカー・ワイルドの世界』所収、開文社出版、2013 年、pp. 330-41) でワイルド本人及びワイルドの喜劇における服飾の重要性に注目しており、他にも伊達恵理が「世紀末の開かずの間—『ドリアン・グレイの肖像』の室内装飾をめぐる」(久守和子、中川僚子編著『〈インテリア〉で読むイギリス小説—室内空間の変容』所収、ミネルヴァ書房、2003 年、pp. 89-112) の中でワイルドの『ドリアン・グレイの肖像』を芸術と装飾の間の曖昧な境界を問う作品として分析している。ワイルド自身や彼のテキストを服装や室内装飾との関連で分析するこれらの先行研究の成果も踏まえつつ、本研究では特に消費文化と強い結びつきを持っていた唯美主義の側面に注目するべく、当時流通していた(しかしそれに限られない)具体的なアイテムに注目し、そのアイテムがテキストでどう描かれているかを分析することで、テキストの新しい解釈の可能性を追うこととした。

## 2. 研究の目的

本研究は、オスカー・ワイルドと、彼と同時代の女性作家のテキストを服装・室内装飾という切り口で検討しなおし、それぞれのテキストへの新たな解釈を提出することを目指

した。なお、ここまで唯美主義とまとめて呼んできた現象を、ここからは便宜上〈唯美主義〉と〈唯美主義運動〉とに分けて呼び、両者をまとめて指す時に唯美主義と呼ぶこととする。〈唯美主義〉と〈唯美主義運動〉の分類の仕方は議論の分かれるところだが、〈唯美主義〉はジョン・ラスキン(1819-1900)やウォルター・ペイター(1839-94)といった男性知識人たちが中心となって発展したとされてきた現象を、〈唯美主義運動〉は上記〈唯美主義〉の教えを日常生活に取り入れようとする、1870 年代以降英国の消費文化と結びついて広まった運動のこととしてここでは捉える。本研究課題で特に注目していた服装や室内装飾は、後者の〈唯美主義運動〉との関連が強いといえる。そのため本研究は、服装・室内装飾という〈唯美主義運動〉的観点からワイルドのテキストや、編集者としてのワイルドと関わりのあった女性作家によるテキストを分析することで、対象テキストを唯美主義研究の系譜の中に再配置し、ひいては唯美主義研究の系譜そのものを問い直すことを目指した。

## 3. 研究の方法

研究の方法としては、オスカー・ワイルドや彼と関わりのあった女性作家のテキストを対象とし、テキスト中に登場する服装・室内装飾の同時代的意味を一次資料・二次資料に当たることによって調査し、それがどのようにテキストで描かれ、いかなる役割を果たしているかを検討した。それにより対象テキストの新たな解釈を試みるというのが基本的な方法である。あるアイテムの同時代的意義を理解し、テキストでの描かれ方を分析することで、当時の読者たちにとって対象テキストがどのような意義を持ったのか、また〈唯美主義〉あるいは〈唯美主義運動〉というコンテキストの中でそのテキストがいかなる意味を持ちえたのかを探ることができると考えたためである。また、服装や室内装飾に注目することで、作家を超えた同時代のテキスト同士の比較、あるいは文学テキストに限定されない同時代テキストとの比較もしやすくなると思った。

## 4. 研究成果

研究成果としては主に以下の 2 点が挙げられる。

(1) 平成 26 年度と 27 年度は、オスカー・ワイルドの『ウィンダミア卿夫人の扇』(*Lady Windermere's Fan*, 1892 年初演、1893 年出版)に関する口頭発表および論文、また「幸福な王子」(“The Happy Prince”, 1888 年)に関する論文を発表した。

前者『ウィンダム嬢夫人の扇』はまずシンポジウムにて口頭発表をし（「学会発表」の項目参照）、そこでフィードバック等をもとに最終的にまとめた論文（「雑誌論文」②参照）では、タイトルの一部ともなっている扇に注目し、当時の雑誌などから、扇が同時代の英国文化においてどのような意義を持っていたのかを概観し、テキストの新たな解釈の提出を試みた。具体的には、『ウィンダム嬢夫人の扇』が発表された頃の英国において扇は、とりわけ恋愛の場で女性の意思を示す道具として広く認識されていたが、その用法は必ずしも好ましいものとは思われていなかったことを指摘した。そのうえでテキスト内での扇の意味を検討したところ、ワイルドによるこのテキストが、同時代が扇に対して持っていた二つの相反するイメージを巧みに利用している可能性が明らかになった。こうしたテキストに対する解釈に加え、このテキストが一見同時代の、扇とそれによる女性の意思表示に対する否定的な印象を支持しているように見えつつも、実際のところは女性が扇を用いて意思表示をすることで、運命を切り開いていく様を描いていることも指摘した。言い換えれば、同時代における女性による意思表示の可能性と、それを警戒し、貞淑さを求めるヴィクトリア朝の認識の両面を示しつつ、このテキストは女性による意思表示を肯定的に扱っている可能性を指摘し、同時代における同テキストの重要性を問おうとした。

後者「幸福な王子」については、主要キャラクターであるツバメに注目して論文をまとめた（「雑誌論文」③参照）。このテキストはこれまで、アイルランドの伝説やキリスト教的自己犠牲、功利主義や同性愛、〈唯美主義〉との関連で語られることが多かったが、新たな視点として、〈唯美主義運動〉との兼ね合いで読み直すことを試みた。具体的には、19世紀後半の英国中産階級の、壁紙やステンドグラスといった室内装飾において、ツバメがひまわりなどと同様に人気のモチーフであったこと、言い換えれば〈唯美主義運動〉と結びつきの強いモチーフの一つであったことを、調査結果を踏まえて指摘した。上記を確認したうえでテキスト内のツバメに注目した時、このテキストが〈唯美主義〉や〈唯美主義運動〉をどのように描いているかがより一層浮き彫りになった。

ワイルドによる2つのテキストを題材として、そのテキスト内に描かれた服装・室内装飾に注目することは、一次および二次資料に数多くあたる必要があり、時間を要する作業であった。しかしその作業を終えたうえで対象テキストに戻るとき、注目したアイテムの同時代的な意味との対比からテキスト内で描かれるアイテムの特徴が明らかとなり、新しい解釈の提案へとつなげることができたように思う。また同時に、テキストがどのようにそのアイテムを描いているかを分析す

ることは、テキスト自体の同時代的意味を問う作業ともなった。そのため、ワイルドによるテキストを服装や室内装飾という視点から見直すことの有効性が、上記2つのテキスト分析によって多少なりとも明らかにできたと感じている。

（2）平成28年度および29年度は、上記の分析から得られた成果をもとに、ワイルドが編集者として関わりのあった一人の女性作家のテキストに注目した。すなわちテキストに描かれた服装・室内装飾に注目することで、対象テキストの新たな解釈を試みると同時に、テキストそのものの重要性を再評価することを目指した。だが、対象としたテキスト自体がこれまであまり注目されてこなかったこともあり、対象テキストの作家の特定、および関連情報の収集に予想外の時間を要した。その結果、確証には至らなかったものの、作者と思われる女性を特定し、さらに調査を進めた結果その人物が〈唯美主義〉および〈唯美主義運動〉において重要な役割を果たした存在であることが判明した。対象テキストの先行研究が少ないため、すべてが手探り状態であり、参照したデータベース自体にも誤りと思われる情報があったこと、また作者特定作業に加え、テキスト内の服装・室内装飾に関連する資料の調査の必要もあり、全体として予想より時間がかかった。そのため論文の執筆は継続中である。だが、今後論文を完成させることで、これまでそれほど注目されてこなかった一人の〈女性唯美主義者〉を再評価し、ワイルドとの関わりにも思考をめぐらせることで、これまでの唯美主義研究の系譜にささやかながら新しい提言ができればと考えている。

#### 〔引用文献〕

Schaffer, Talia. *The Forgotten Female Aesthetes: Literary Culture in Late-Victorian England*. Charlottesville: UP of Virginia, 2000.

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

- ① 輪湖 美帆、（書評）「佐々井啓著『ヴィクトリアン・ダンディーオスカー・ワイルドの服飾観と「新しい女」』、『英文学研究』、査読有、第94巻、2017年、28-32
- ② 輪湖 美帆、「アーリン夫人の扇—Oscar Wilde『ウィンダム嬢夫人の扇』に見る扇の二面性」、『オスカー・ワイルド研究』、査読有、第14号、2015年、33-44

- ③ 輪湖 美帆、「オスカー・ワイルド「幸福な王子」—唯美主義運動の〈使者〉としてのツバメ—」、『英語英米文学』、査読無、第55集、2015年、31-43、  
<http://ir.c.chuo-u.ac.jp/repository/search/item/md/-/p/7354/>

〔学会発表〕（計 1 件）

輪湖 美帆、「貞淑な扇の「モノ」語り—『ウインダミア卿夫人の扇』に見る扇の二面性」、日本ワイルド協会第39回大会 シンポジウム「流行／装飾／マテリアル—ワイルドと世紀末の消費文化」、青山学院大学青山キャンパス、2014年11月29日。

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
特になし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

輪湖 美帆 (WAKO, Miho)  
中央大学・理工学部・助教  
研究者番号：50707106